

どうもこんにちは。弁護士の桂と申します。昨年の事件があった7月から川瀬先生の刑事弁護を担当させてもらっています。

私は、皆さんと違って昨年7月以降しか川瀬先生を知らないんですが、そういった中でも川瀬先生の人となりをおある程度拝見させていただいてこの事件が本当に不当な起訴だということを感じています。

市民の不安を煽るマスコミ報道！

新聞報道は非常にセンセーショナルに書かれています。マスコミ報道を通じて、川瀬さんがどういう風に扱われたかということは、その新聞報道やテレビ報道なりのとらえ方と川瀬さんとのギャップというのを多くの方が感じ取っておられると思います。

実態としても事実関係を詳細に見ていくと、マスコミの報道のされ方というのは非常に歪といいますか、誤った一面的な報道をされているということを断言せざるをえません。何が公共なんですか。公共放送だといいいながら、公共じゃなくって市民の不安をあおるような報道だけをしている。

ざっと事実関係の経過をたどってみたいと思います。3回起訴されています。1回目は昨年の7月30日。その中身は、二つあります。一つは5月29日に川瀬先生の隣の家の車の販売店なんですが、その車のアンテナをとって自分の車につけていた。窃盗。それが一つ。それから7月5日の誘拐未遂。誘拐というと非常に恐ろしいきつい犯罪だと思うんですが、起訴されている実態というのは、小学生二人に「妙見山まで行く道を教えて欲しい。車に乗って」とそういうことを言ったという。それが誘拐未遂になるという。そういう事実で起訴されています。

そのあと保釈されたんですが、大津の方で、7歳の子供さんに「300円あげる。好きな本を買ってあげる。こっちへおいで」といった。それも誘拐未遂なんだと起訴されています。さらに、一緒に起訴されていることなんですが、ちょっと奇異な事実なんですが自転車のサドル。座るところだけとって引っかえた。サドルの窃盗とチェーンのカギを1個を盗んだとこれが窃盗ということで起訴されている。

起訴されたあと、さらに初回の起訴のときには起訴しなかった7月5日の起訴と連携してやっтерことですが、7月5日当日に、14歳の女子中学生に、「1時間ぐらいカラオケに付き合って欲しい」と声をかけた。これが誘拐未遂として起訴されました。これが3つ。

いわゆる誘拐というイメージは身代金目的とか、わいせつ目的、いたずら目的で女の子を無理やり連れ込むんだというお考えなんだろうと思いますが、法律上の要件としては、親御さんたちの看護支配権を逸脱して子どもさんを別のところに移そうとする。それだけで誘拐になるんだという判例があるんですが、力づくでなくとも甘い言葉をつかって、言葉だけで人を誘っても、誘拐にあたるんだというそういう法律上の解釈があります。

でも実態をみると、本当に普通のおじいちゃん、おばあちゃんがちいちゃな子に「元気か」と声をかける程度で、そういったたぐいのことと大きくは変わらない実態なんですね。

しかし、マスコミはセンセーショナルに報道しました。そのもとになったのが、安全メールということで、瞬時に流れたわけですが、池田小学校の事件のあと、池田の皆さんは確かに恐怖といいましょうか、子どもさんの安全を守るために、不安に駆られているというのはよくわかるのですが。だからといって、何といいましょうか。ちょっと騒いだけで、熊がいるんだと思ったら、小動物だったというたぐいでしょうか。

何かしら大きな恐怖の不安感をあおるだけであって、川瀬さんのことが大きな不安材料としてとらえられてしまった。非常に残念な結果になっています。そこで、安全メールということで、瞬時に連絡がいて、川瀬先生がそういった形で、被疑者としてあがってきた。その結果、逮捕されてしまった。

池田の街の安全は守られたのか！

報道を見てみますと安全メールの結果、池田の街の安全や平和が守られたという類の報道がされましたが、それは大きな間違いだと私は思います。逆にますます不安を煽ってるに過ぎない。ますます人を見たら犯罪人と思えという、疑心暗鬼の世界に追い込んでいるだけ。むしろ逆に子どもさんに対して皆さんが気軽に声をかけてコミュニケーションをとる。そういったことをすべきなのにますますそれが出来なくなっている。ますます不安をあおってる。そういう実態になっている。そういう風に思います。

そういったときに学校の先生方、特に管理職の先生方は報道されたこともあったんでしょけれども、自らの身を守るということもあったんでしょでしょうか。犯人として川瀬さんを差し出す。川瀬さんを守って、一緒になって悩んで何とかそんなことはないんだと。そんなひどい先生じゃないんだ。実態としては優しい先生だよといってもらえればいいのと思うのですが。

残念ながら、結果としては肅々と川瀬さんは悪い人だとマスコミと一緒にあって、一件落着という形で起訴されてしまったことになっています。

しかし、本当に何が変わるんでしょうか。川瀬さんを起訴したからといってこの池田の街が安全になるんですか。街全体が、日本全体がより安全になったかという、私は逆だと思ふんですね。

若年性痴呆症の疑いが

特に川瀬さんは先ほどいいましたように非常に奇異な行動をその前からとっている。起訴された車のアンテナですね。自分の隣の家の車、販売店ですね。アンテナをとって、わざわざ隣の家である自分の家の車につけている。すぐ分かるような行動なんです。そういった行動をとっている。さらに起訴されたあと、保釈されたんですが、そのあと実は大津の日赤の精神科の方に通院をされている。最終的な診断が下る前に川瀬さんは逮捕されてしまいましたが。その精神科の先生が曰くも若年性痴呆症の疑いがある。疑いであって、正式診断ではないんですが、規範意識といいましょうか、いいか悪いかについてはっきり

判断ができない。人間ですから、いずれ老いていく。人によっては痴呆なんかも出てくる
ことがあるんですけれども。そういった傾向が川瀬さんの場合はあったんじゃないかとい
われています。断定はできないんですが。

拘置中に大怪我！小泉首相に責任を取れといわれている！！

さらに、拘置中に11月29日ですけれども、拘置所内で自ら壁に頭をぶつけて、15
センチ～20センチの非常に深い傷でしたけれども、自分で頭をぶつけて頭に傷を作った。
そういう状態でした。

事件後、私たちが面会に行きますと本当にどうみてもおかしいことをおっしゃっている。
その時の発言をメモしましたけれども、どうしてそんなことになったのかというと、小泉
首相が横にいてボタンを押し間違えて、自爆装置が働いて爆発した。責任を取れといわれ
ている。頭をぶつけて死のうと思ったが死ねなかった。眠れないとしきりに言われていま
した。そういう状態でした。

本当に精神がやんでるなということが分かるんですが、そういう風に追い込んでいった
のは一体なんなんだろうかと考えさせられました。

弁護人としてはそういう状態ですから、拘留をすぐ停止して、病院の方に入れて欲しい。
正式な治療をして欲しい。拘置所内では医師はいらっしゃるんですが、精神科の医師の専
門的な治療を受けられないじゃないか。執行停止の申し立てを出したんですが、裁判所は
その必要はないと。拘置所内で十分だと。精神的には安定している。との答えでした。
残念ながら、その結果、拘留が続いている。社会との交流が断ちきった中で、拘置所の中
で隔離された中で、ますます精神的に悪化したんじゃないか。推測せざるを得ません。

55歳なのに老人のように！なぜ拘置所は彼を病院に入れなかったのか？！

そのあと、最終的に2月の6日にお亡くなりになりました。残念な結果になりました。
ご遺族の方や私どもも含め、自殺じゃないかと疑ったんですが、診断としてはのどに物を
詰まらせてなくなったということでした。疑問として残るのは、本当に拘置に耐える精神
状態、肉体状態であれば、55歳の方が、老人のようにのどにものを詰まらせて亡くなる
ということが有りうるのか。本当におかしいのなら健康状態がおかしいなら拘留を停止し
て、すぐに病院に入れるべきじゃなかったのではないかな。

そういった意味では、管理者である拘置所側の責任もあるではないか。疑いがある。そ
の点は疑いであって、断定的なことはいえない状況です。

こうして事件そのものは裁判で無罪を争っていたんですが、裁判も結果的に進まないま
ま、刑事手続きの中では、被疑者、被告人が亡くなりますとこの段階で手続きがおわっ
てしまう。

刑事裁判は無罪の推定といいながら、無罪なりの判断もされないまま、無罪について主張
する場も失われてしまって事件そのものが終わってしまう。そういう結果になっています。

控訴棄却というのですが。

裁判は何もなかった。判断されずに終わってしまった。結果的に何が残ったか。ひどいマスコミ報道は残った。

「懲戒免職処分不服申し立て」の遺志を継いで！

名誉回復の手段は限られたものになります。法律的には一つ考えられるのは、川瀬さんが亡くなれる前に、懲戒免職処分について不服申し立てといいまして「この処分はおかしい。取り消してほしい」ということで出しておられました。ご本人が亡くなられましたので、終わる可能性もあるんですが、相続人の方が、承継すれば手続きは続きます。

非常に刑事事件で反論すべき証拠なんかもなくなってしまって、裁判の中で強制的にいろんな方を引っ張り出させて尋問するということもできたかも分からないのですが、そういう手段もなくなりました。そういう中で、どこまで取り消し処分として、立証できるか難しいところはあるんですが、残念ながら法的手段としてはそういったものが一番大きなものですので、そこをどうにか弁護人としては対応していきたい。私は他の関係で不服申し立ての裁判そのものは担当できないので、相方の弁護人であります小林弁護士が主担当する予定ですが、そういう形で川瀬先生の弁護介護を行っていきたいと考えています。

勿論、法的な意味では国家賠償といいましょうか。不当な起訴であるとか、死亡されたことについて拘置所の監督責任があるんじゃないとか、そういった形も考えられなくもないんですが、それはあとの問題として、当面は、不服申し立ての手続きをどうするかということになります。

やはりそういった時に重要になってくるのは、皆様のご支援になると思います。マスコミ報道というのはいい加減といいましょうか。何も知らない人がぱっと来てぱっと帰って一面だけを見て報道するというところがあるのですが、残念ながらその力は非常に大きいです。マスコミの大きな偏見を植え付けられた川瀬さんの処分を覆すとするとなんか大きな力で跳ね返す必要があります。

多くの方が川瀬先生を支援している。川瀬先生はそんな人じゃなかったはずだ。マスコミがこんな報道してきたが実際は違うんだ。こんな先生にもっといってほしかったんだ。川瀬先生を処分したからって何も変わらないですよ。ますます悪い方にいってまします。川瀬先生の病気という面があったかもしれない。病気になった人を鞭打っていいのか。病気の方に対してはケアすべきでしょう。

そういったことでは温かい行政をするということも必要です。そういった温かい目で見えていくことでこそが本当の教育があるんじゃないか。いろんな声を上げていかなければ、府の担当者、裁判になっても裁判担当者に届きません。

社会的な偏見を植え付けられたマスコミの中で大きな偏見をぶつけられた川瀬さんのことで跳ね返すということはとても苦しいです。そういった意味で一人でも多くの方がそうではないんだと。川瀬さんに対しての正当な評価をしてもらいたい。ましてや彼が抱えて

いた仕事の実態とか川瀬先生の昨年までの経緯や病気ということを考えても、こういった処分をすることは決してプラスにならない。逆により池田の街全体を悪くしてるんだと声を上げてもらえればとおもいます。

微力ではありますが、努力をさせていただきます。
ぜひ皆さんの方の力もよろしくお願いします。